

### 平和構築人材育成事業

人材育成のノウハウや知の蓄積を生かし、世界の平和構築に貢献。

#### 過去5年間の事業を振り返って



篠田 英朗

広島平和構築人材育成センター(HPC)  
理事・事務局長  
国立大学法人 広島大学  
平和科学研究センター・  
大学院国際協力研究科 准教授

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないか。そのような気持ちだけで、この事業を始めました。

経緯があって、自分自身を事業実施責任者として「広島平和構築人材育成センター(HPC)」を立ち上げることにしたのは、半ば偶然であったと言ってもいいですし、半ば意地のためであったと言ってもいいかもしれません。5年たった今でも、HPCという組織を維持・発展させることには、私自身は、全く関心はありません。

5年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や研修員・修了生の皆さんは、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献し続けています。運営者として、本当に誇りに感じています。またかつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方々が、研修員として、職員として、HPCを媒介にして、飛躍し、活躍し続けています。

日常的な業務に追われる中で、平和構築の人材育成だけを、第一義的な目的に据え続けることは、意外に簡単なことではありません。この事業の主役は、世界中で平和構築に貢献する、研修員・修了生の方々です。平和構築に関心を持つHPCスタッフも、その使命を忘れずに従事してきました。そのように事業を行えたことは、私にとって素晴らしい経験です。

#### 5年間の歩み

##### 平成19(2007)年度



##### 平成20(2008)年度



##### 平成21(2009)年度



##### 平成22(2010)年度



##### 平成23(2011)年度



#### Special Thanks! [OB・OGメッセージ]



鈴木 恵理  
(平成19年度事業研修員)



ナビータ・マハジャン  
(平成19年度事業研修員)



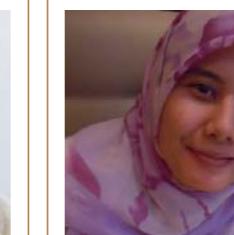
金山 夏子  
(平成20年度事業研修員)



カラナ・セナラトネ  
(平成20年度事業研修員)



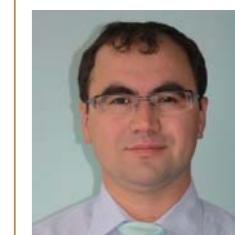
馬目 美奈子  
(平成21年度事業研修員)



アイダ・サフラ・ニザ・オスマン  
(平成21年度事業研修員)



副島 知哉  
(平成22年度事業研修員)



サイド・アンワール・オスmani  
(平成22年度事業研修員)

私は、修士号を取得後、約5年間、主にNGOで難民保護、地雷除去、緊急援助の物品配布・仮設住居設置、子ども保護、モニタリング評価と様々な分野を経験し、専門性を確立せねばと強く感じていた時に本事業に参加しました。研修で、平和構築の多岐にわたる分野を俯瞰し、多くの専門家と話す機会を得て、また、研修後は、ダルフールでのPKOを経験したことで、考えを整理しその後の方向を定めることができました。その後、ユニセフJPOとして子どもの保護の分野で3年間経験を積み、現職につながっています。

本事業最初の年の修了生となれたことは人生を変える経験でした。本事業は平和構築に携わる者であるために、平和の概念を理解する上で必要な多くの側面を探求するよう教えてくれただけでなく、日本やアジアの国々から参加した28人の仲間と相互に学ぶ機会も与えてくれました。また、本事業は私に理論と政策、政策と実施の差を埋めるメカニズムを重視することを可能にしてくれました。研修やその内容だけでなく、仲間との交流によって、異なる文化の美しさを知って理解できたことが私にとって最も重要な成果でした。

本コース海外実務研修で派遣されたUNDPシエラレオネでの勤務を終え、昨年10月よりUNDPアフガニスタンにおいて、選挙支援とジェンダーを担当するユニット長として勤務し始めました。事業実施や運営というマネジメント力が重視されたこれまでの職務に対し、現在は事業実施チームの補完・管理に加え、担当分野を戦略性、資金力、パートナーシップの側面から強化するための牽引力が要求されています。今後は、HPCで得た実践的専門知識と戦略的思考力を更に深め、リーダーシップを兼ね備えた平和構築専門家への成長を目指しております。

平和構築における理論とワークショップ(実技)が組み合わされた研修は、集約的で、双方向性を持つ構成になっており、非常に有益で素晴らしいものでした。更に、その後の現場で得た経験は充実したものになりました。また、運営者であるHPC、講師陣、施設などの多くの要素により、包括的な内容を持つこの事業が、さらにいっそう印象的に、そして意義あるものになっていました。アジアの国々によって平和構築の促進が世界中で示されること非常に喜ばしいことです。この事業は、さらにいっそう発展していくべきものだと思います。

本コース海外実務研修後、現在はJPOとしてUNDP本部危機対応復興局に勤務しています。特に緊急支援や平和構築分野において、効率よく調整のための支援を行っていくことが求められていますが、異なる国連機関での経験から多角的な視野を得ることができます。現在、国連機関の組織の意思決定と国レベルのプログラムとの関連を学びながら、これまでの経験が日々の業務に役立っています。今後は専門性を高めながら、誰の何のために働くのか見失わず、新しいことにチャレンジしていくべきだと思います。

私は大学院で難民学を学んで、その知識をフィールドで活かすための第一歩として本コースに応募しました。UNHCRが求める現場経験を海外研修で得られるのは、私にとって非常に貴重な機会でした。実際の国内研修での学びは現場で直接役立つばかりでした。先日ソマリアから逃れてきた難民の若者支援戦略作りをしましたが、その様子は国内研修での調整業務コーディネーションのワークショップそのままでした。海外実務研修では難民キャンプでの活動の躍動感を知り、今後も本研修で学んだ知識と情熱を各地のフィールドで還元したいと思っています。

# 本事業5年間の軌跡

2

## データで見る、平和構築人材 育成事業

### 幅広い分野、バックグラウンドからの参加

本事業は平成19年度に始まり、今年で5周年を迎えました。これまで日本人、その他のアジア人を含め275名の研修員、受講者の方が本事業に参加しました。

本コース日本人研修員は本事業に参加する以前に、NGOやJICAなどで直接的に平和構築に関する分野で活動をしている方から、一般企業などに勤務して間接的に平和構築に携わっている方々まで様々です。

アジア人研修員も、政府関係者や国連ミッションに参加した経験がある方など、幅広いバックグラウンドを持った方が集まり、研修を一層刺激的で効果的なものにしてきました。

海外実務研修においては、これまで研修員を29カ国・地域に派遣し、また、本コースの日本人研修員の約9割の方々が修了後、国連をはじめとした国際機関など平和構築の現場で活躍しています。



HPCスタッフ

Report by  
HPC研修員・修了生管理担当  
ジョン・ヒョンジョン



平和構築は  
職務ではなく  
使命です

毎年、どんなPAが集まるのかなど、とても楽しめます。募集・選考をはじめ、研修参加への事前調整、国内研修中のPA関連業務、海外実務研修マッチングのHPC側調整役などを務めておりますが、中でも、今後の平和構築分野の主役となるPAの皆様との絆が一番魅力的です！

### 参加者の累計数

(コース名/年度)	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
本コース	日本人	15	15	15	15
	アジア人	14	14	14	14
シニア専門家コース (平成21年度実施)	日本人			10	
	アジア人			9	
文民専門家コース (平成22年度実施)	日本人				10
	アジア人				10
平和構築基礎セミナー (平成21年度～実施)	日本人		30	30	30
年度参加者数	29	29	78	80	59

平成19年度～23年度までの参加者数の累計  
■日本人 185名 ■アジア人 90名

総参加者数 275 名

**HPCスタッフ**

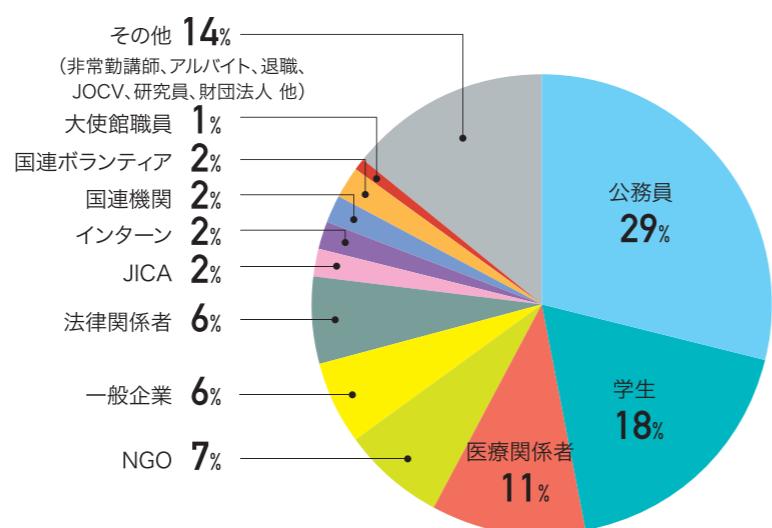
Report by  
HPC広報担当  
後藤 大祐

未来の平和を  
支える仕事です

広報担当として研修員・受講者の募集活動、事業報告用小冊子の作成に携わり、未来のピースビルダーズを発掘するお手伝いをさせていただきました。広報という立場上、様々な方とお話をできる機会が多くあり、私も良い経験をさせて頂きました。

### 基礎セミナー受講者の職業

※平成21年度～23年度



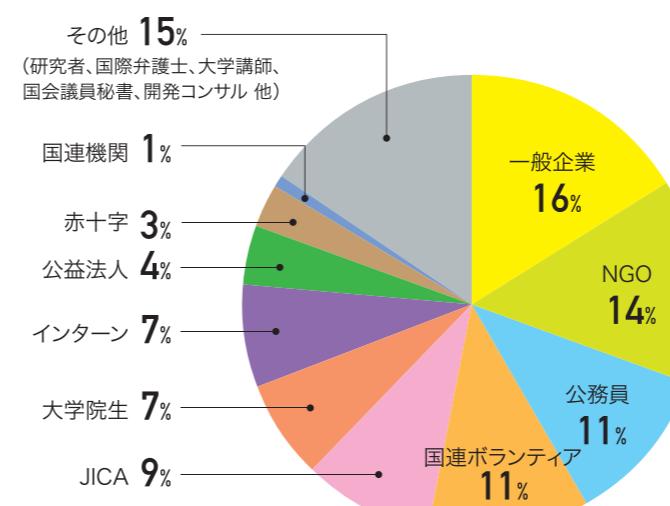
### 派遣先総数

※平成19年度～22年度



### 本コース研修前の職業

※平成19年度～23年度の本コースに参加した日本人研修員



### 本コース後の就職先

※平成19年度～平成21年度の日本人研修員(海外実務研修中の22年度研修員と23年度研修員を除く)

